

特 集

「2019 春スキーの集い」

スキルアップ研修会開催

広 報 部

平成最後となるSAJ研修会「第6回春スキーの集い」スキルアップ研修会が、3月29日～31日までニセコグラン・ヒラフで開催されました。今回は、昨年より1週間早い開催となったため、年度末や決算、転勤、卒業・入学・入社式等の時期と重なったせいか、参加者のキャンセルが相次ぎ、30名（内女性5名）の参加となりました。

おまけにこの日は、高速道央道の小樽側で事故が発生、旭川方面からの参加者が遅れるというハプニングもあり、波乱のスタートとなりました。この研修会参加者の3分の2はリピーターという「独特の雰囲気魅せられた」仲間が集合、1年ぶりの再会に受付の時から和気藹々の、同窓会のような雰囲気になりました。

この日は北海道付近に三つの低気圧が接近中とあって、道内は不安定な天候と予報されておりましたが、初日から好天に恵まれ、秀峰羊蹄山を3日間、眺めながらの初の研修会となりました。研修会のタイトルを変更して3年目、1週間早めた開催日が凶と出たのか？ 催行定員ギリギリの参加数となりました。平均年齢は67.8

歳最高齢は86歳、若手は27歳、女性の参加者は昨年より3名減となりました。

初日は、天気予報を見事に外した好天に恵まれ、羊蹄山とニセコ付近だけライトが当たっている舞台のような風景で、遠くに黒い雨雲が流れているという不思議な天候となりました。

13時からホテル前で開会式が行われ、三浦総務主任の司会進行でスタート、今回の責任者である吉村道連理事は2回目の担当という事もある顔見知りの参加者も多く、浜なまりの話ぶりが人気で、今回も研修会のムードメーカー的存在となりました。吉村理事から「3日間昼夜を問わず研修と懇親に努めてください」とユニークな挨拶で爆笑のスタート。藤島道協会会長が「第6回目が開催できたことに安心と感謝を申し上げたい。皆さんの3日間の健闘を祈ります」と激励、来賓挨拶を頂き、続いて平岡主任講師から「噂に聞いていたこの研修会を楽しみにしてきました。3日間怪我をしないように、昼夜を問わず研修に励んでください。」とここでも爆笑の挨拶を頂き、今回の講師2名（小森SAJデモ・上村SAJ技術員）を紹介し、恒例の



開会式風景



責任者挨拶は吉村道連理事

写真撮影の後、リフトを乗り継いで千米台地へ。ここで各班ごとの記念撮影後、ジャンボコースの上部（総滑）、下部（小回り）を使って、2名の講師によるデモンストレーションを見学して、各班ごとに実技研修に取り組みました。



羊蹄山をバックに「華の1班」

千米台地付近は粉雪状態で、3月末のバーン状況としては最高のコンディションでした。

初日の実技研修の終盤で、2名の負傷者が出て関係者を心配させましたが、大事に至らず休養を取って頂くことに。

16時からの理論研修は、吉村理事があいさつ代わりにの浜なまりで、Jr選手権の報告と今後の対応、研修会における無断欠席について、雪が1次産業（漁業）に与える影響について等々熱弁をふるい眠気を吹き飛ばす幕開け。負けじと平岡講師も、理論研修で固まった体の肩凝り防止の「肩甲骨ストレッチ法」を披露し、参加者の皆さんは「居眠りする暇がなかった」と、充実した理論研修に笑顔で満足！

18時から、レストラン「シュプール」でこの研修会で最も大切な「夕食・懇親会」が開催



新興宗教？ 平岡講師のストレッチ講習

され、冒頭の責任者挨拶では吉村理事から「アクシデントはありましたが、これは神様が年相応に滑りなさいという事、3日間気を付けて研修してください」と注意を喚起、協力団体挨拶では乾杯を兼ねて、藤島道協会会長がこの研修会の歴史と経緯、今回も開催できた喜びと感謝を述べて、乾杯！！

宴の席は開かれました。

三浦主任の司会・進行で数々の差し入れが披露され、最初にマイクを握ったのは研修会常連となった西田先生（札厚別）から二世古酒造の「清酒とどぶろく」提供の経緯を杜氏に代わってPR、今回は参加できなかったタコと螺の提供者山岸先生（札南）、自家製の生ハム・サラミ等を抽選会に提供してくれた函館の時兼先生、吉村理事からも自家製の昆布刺しのほか、差し入れのワイン、お酒等々、沢山の真心が拍手の中披露されました。宴もたけなわとなったところで、自己紹介タイムへ・・・。



藤島会長の発声で乾杯！！

会長所属の苫小牧地区からスタートし、参加者が順次ユニークな自己紹介で笑いを取る中、ラストはSAJ小森デモが可愛らしく締めて恒例の抽選会へ……。幸運の女神を務めたのは小森デモ、抽選のシールはがしに四苦八苦しながらも、ハムの詰め合わせセットを10人の方々に引き当て、全員でスキーソングを熱唱し、1次会の締め乾杯へ……。

司会者から指名されたのは小森デモ、いろいろ悩んだ末、選んだのは一本締め！全員で声を合わせ、「イヨー！ポン！」で、恒例の二次会へ。

会が盛り上がったのは言うまでもない。

2日目、朝から快晴の空の下、9時30分各班元気にスタート、この日は風もなく絶好のスキー日和、キング第2クワットリフトの終点で羊蹄山をバックに記念撮影後、2班とも最上部のダイナミックコースまで登り、研修テーマに取り組みました。昼食をはさみ13時から、各自のスキルアップ研修に努め、実技研修は無事終了。16時からの理論・クリニック研修へ。

ビデオを使っの研修の後は、全員で反射神経を試す「ジャンケン」ゲーム。主任講師を相手に苦戦を強いられ、苦笑いも・・・。



参加者は反射神経も試されます

後半は講師を含めたディスカッション研修となり、技術、スキーの選び方、トレーニングの方法等についての質問や疑問、心構えなど上村技術員、小森デモと時間いっぱいまで、熱い意見交換が行われました。

この日は、夕食後に座談会が企画され、全員が参加して差し入れのタコ、生ハム・サラダ、ワインに昆布刺しと、前日に負けないほどの昼夜を問わない研修会となりました。

最終日も朝から好天に恵まれ、9時研修開始、連日の「昼夜も問わない研修会」の疲れも見せず、全員千米台地へ一目散に登っていききました。

この日は羊蹄山の頂にちょっと雲がかかっていたものの、ニセコアンヌプリの頂はくっきり、春の様な日差しが照り付ける割には、雪質は粉雪とゲレンデ状況は最高！

各班、スキルアップの効果を実践しながらの研修となりました。11時実技研修が終了。

役員一同が出迎える中、各班元気にホテル前に無事下山、閉会式が行われました。

まず、責任者挨拶で吉村理事から「昼夜を問わない研修お疲れ様でした。平成最後の研修会でスキルアップした技術を、新年度まで研鑽して有意義なものにしてください」と、力強く激励、藤島道指協会長からは「来年の開催については、皆さんの参加しやすい時期を検討したい。来年も皆さんの参加をお待ちしています」と挨拶。続いて、平岡主任講師から講評があり「3日間お疲れ様でした。皆さんが昼夜を問わない真剣な研修に励んだ効果は、期待できるものと思います。来シーズンに向けてこれからも研鑽に努めてください」と講評、「来年も昼夜を問わない研修会に呼んでください」とリクエストも追加され、参加者からは笑顔と拍手も・・・。



閉会式風景（会長挨拶）

締めの一シーンハイルは参加者で最年少の香田先生（登別）が「まだまだ未熟でスキルアップできていませんが、楽しい3日間を過ごすことができました」と元気な挨拶の後、シーハイルを三唱して平成最後の「春スキーの集い」スキルアップ研修会は盛会裏に終了しました。

閉会式終了後の会場では、講師の上村SAJ技術員、小森デモはツーショット写真に引っ張りだこ状態。役員が見送る中、参加者同士が「お世話になりました。また、来年逢いましょう」と別れを惜しんで、握手会に・・・。

お世話になった関係者の皆さまと参加者の皆さま、ありがとうございました。

来シーズンもまた、ニセコで逢いましょう。

シーハイル！！